

# 令和 8 年度 入学 試験 問題

## 外 国 語

### 中 国 語

150 点 満 点

《配点は、一般選抜学生募集要項に記載のとおり。》

#### (注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに 4 ページである。
3. 問題は全部で 3 題ある(1～4 ページ)。
4. 試験開始後、解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には、これら以外のことを書いてはならない。
5. 解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
6. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
7. 解答冊子は、どのページも切り離してはならない。
8. 問題冊子は持ち帰ってもよいが、解答冊子は持ち帰ってはならない。

外国語（中国語）については3題のうち、Ⅲのみ公開する。

## Ⅲ

次の文章(1)、(2)を、中国語に訳せ。

(50点)

- (1) 「現場」ということばがある。ヨーロッパのことばで何と言うか、また、この漢字二字のことばの意味が中国語でどういうことになるのか知らないが、この日本語はふり幅も大きければふところも深い、そして、鋭い意味を持ったことばだ。もちろん、ことはことばだけの問題ではない。「現場」ということばを口にするとき、あるいは耳にするとき、私たちはことばの意味するものを何かつねならぬ気持とともに明瞭に心のなかに思い浮かべている。

(小田実『われ=われの哲学』より)

- (2) ひとの背よりも丈高い見事なすすきが、びっしりとその河原にそよいでいた。私と、その人は堤に腰をおろして、すすきの風になびくありさまを、飽かず見まもっていた。その人も、私も、そしてすすきも、冬近い風にいっしょにふかれていた。すすきの匂いはあまりしないように思われたけれど、すっかり黒く実った草の匂いが、ときどき、かんばしく匂ってきた。それは草の匂いではなく、堤のどこかを焼いている、その匂いなのかもしれなかった。

(岡部伊都子『美を求める心』より)

問題は、このページで終わりである。